

アガティスの森



文と写真◎ 宮本 和樹 Miyamoto Kazuki

森林植生研究領域

ボルネオ島の山小屋の
裏のアガティス
(*Agathis* sp.)

マツやモミなど松ぼっくり（球果）をつける樹木を球果類といいます。私たちが調査・研究しているボルネオ島（マレーシア、サバ州）にも数種の球果類が生育しています。なかでもナンヨウスギ科のアガティス（ナギモドキ属）は樹高40メートルにも達する高木で、東南アジアからオーストラリア、ニュージーランドなどに分布しています。

松ぼっくりというと、松葉などの針葉がすぐに思い浮かびますが、球果類の葉の形は必ずしも針葉ばかりではありません。アガティスの葉はへん平で、葉脈が平行にはしり、球果はピンポン玉よりやや大きいボール状をしています。アガティスの木材は家具材などとして日本でも利用されています。

ボルネオ島で球果類がみられるのは、おもに標高の高い山地や、低地でも土壌養分の乏しい場所です。アガティスは広葉樹が優占できないこうした厳しい環境でたくましく生育しています。私たちの調査したアガティスの森では、周辺の森とくらべて生育する球果類の種数が多い傾向にありました。アガティスの森は近縁の球果類にとっても生育に適した環境なのかもしれません。

私たちがボルネオ島の現地調査で滞在する山小屋のすぐ裏には、巨大なアガティスが屹立し、ハシゴで登ることができました。樹上からみるアガティスの森の眺めは壮観でした。現地スタッフは時折「君たちは外国人だから霊がみえなくていいね」といいます。同僚は「科学者は霊を信じないよ」と返していました。アガティスの精霊に見守られていると思うと、調査に臨むときも自然と森への畏敬の念が生まれるのが不思議です。♣



アガティスの葉と球果



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷材料を使用し環境配慮されたグリーンプリンティング製品です。印刷工程で発生したCO2を削減しています。

19.09.10000

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可